



實語教童子教

實語教童子教

香湯  
藏  
龍山  
村  
藏  
通  
居  
大  
郎







ひさ  
おの  
か

飯のくひすうはた  
の害あるまゝしく  
飯粒のむしは飯を次  
みさぬろふとさうて  
はが能うくひ次に  
汁とくろくあつたか  
茶飲くふくさうて  
さうりさうまかく  
ゆき飯とて見んせ  
はなよりさくへまうて  
くふべうびや汁飯  
さいとくふまきまうり  
七五三三三三三三  
飯よりくひすうむさ  
くねろくまなう

位如向市人 位如僕不僕  
只如討隣賊 君子宅智者  
小人宅福人 惟合富貴家  
為無財人志 猶如霜下花  
雖貧賤門 為有智人志  
宛如泥中蓮 父母如天地

し  
た  
た  
ふ  
ふ

二此膳はくさ中膳  
のり飯を汁と吸  
飯をくひすて二の指  
ろ汁とたのまてま  
たのまかちまか  
飯もさくはのら  
まかちまかちま  
まかちのらまかち  
はのらにまかち  
まかちまかち  
汁飯くくくく  
まかちまかち  
まかちまかち  
のらまかちまかち  
湯とのらまかち

師君如日月 親族辟如華  
夫妻行如瓦 父母孝如夕  
仲君位如杖 交友勿得辜  
已見盡礼敬 已身如愛顔  
人而無智名 不異於木石  
人而無孝名 不異於畜生



風雨と和乃説



死如隨身新 修善有善福  
臨死勿忘貧 或始富終貧  
雖貴勿忘賤 或生人死後結  
史難忘善忘 音聲之得文  
不為學難忘 書筆之性塵  
俾有食之之法 亦有身有命

二

蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付  
蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付  
蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付  
蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付  
蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付  
蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付  
蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付  
蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付  
蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付  
蚊あぶらのあぶらにあぶらのあぶら付

世不忘農業 必其廢學  
故末代學者 先下棄此書  
是學問之始 身終勿忘失  
實語教いんげんのいんげん法はつ大だい師し傳でん佛ぶつのの二に教きょうとと合あてて信しんじじとと和わ也  
童子教どうしきょうはは慈じ覺かく大だい師しのの子こ子こ安あん其き和わ尚じやうとと人にん作さく也

童子教



天竺よりあまのこ  
 又たついでに代り  
 日よしの風吹十日  
 石をまた又樹木を  
 汗あつたあまのこ  
 風の志すかた  
 とり灯をともせり  
 ありてはあまのこ  
 魚をいであまのこ  
 押さるいかに風を

觸事不遠朋  
 言浮人得離  
 沈多者品少  
 老物如以友  
 懈怠者怠食  
 瘦穢如食菓  
 勇者必有老  
 夏虫如入火  
 鈍者又世遺  
 春鳥如遊林  
 今耳志付壁  
 窓而勿終言

人の心はらうゆく耳  
 あらくわ不赤く哉  
 心のひらひらむ  
 ちれ志すかた  
 押さるいかに風を  
 風の志すかた  
 心のひらひらむ  
 の志すかた  
 天雲より晴そ蒼  
 夕色は三日のうちに  
 かまらびあふそ  
 さるべきあふそ  
 是が大風あふそ  
 雲をこれくはそ

人眼を懸天  
 隱而勿犯用  
 車以三寸  
 搖遊以千里  
 路人心三寸  
 舌破換以尺身  
 是也禍之門  
 舌是禍之根  
 使是異志  
 終身敢重復  
 波言一出者  
 罵詈追不返舌



ちるれい久風のきり  
 と志はるー  
 春大ふさびくふ夏  
 氣蒸し秋さらけ  
 まじく冬さらけ  
 あまらるる風もあま  
 みの家きこかま  
 五ふの耐山とま  
 尺世晴天ゆい  
 尺もれそのあり  
 五ふは落止る  
 日和さゆも  
 擬拙ゆく這ま  
 ばかりはちり  
 五のふなり

白主珠之磨惡言玉難磨  
 禍福之門唯人在所托  
 天作災之避自他灾難逃  
 夫積善之家必有餘慶矣  
 又好惡之處必有餘殃矣  
 人而之法德必有陽報矣

年中風雨の古

北斗とまら星  
 のいふ人む  
 まらら風まら  
 べーええええ  
 くのちうも  
 西より吹風と  
 ひやうまの西  
 かの風の日より  
 さふれさふり  
 又水種成うし  
 年中風雨の古

人而之德行必有餘慶矣  
 信力堅固門災禍雲母記  
 念力強盛家福祿月增光  
 公不同如面磐石如水隨黑  
 不挽他人弓不驕他人馬  
 前車之覆後車之為戒





又節句の故事

元日

元日と云ふは元月  
の初日也其の始は  
元と云ふは元也  
人の心を元と云ふは  
心万物の始と云ふは  
もろくも元と云ふは  
元と云ふは元也  
元日と云ふは元月  
の初日也其の始は  
元と云ふは元也  
人の心を元と云ふは  
心万物の始と云ふは  
もろくも元と云ふは  
元と云ふは元也

則善人<sub>一</sub>不離<sub>一</sub>大船<sub>一</sub>如浮海  
隨順<sub>一</sub>善友<sub>一</sub>去<sub>一</sub>如麻中<sub>一</sub>遠直  
親近<sub>一</sub>惡友<sub>一</sub>去<sub>一</sub>如教中<sub>一</sub>荆曲  
離祖<sub>一</sub>付<sub>一</sub>改<sub>一</sub>師<sub>一</sub>空<sub>一</sub>飛<sub>一</sub>空<sub>一</sub>惠<sub>一</sub>業  
根性<sub>一</sub>注<sub>一</sub>愚<sub>一</sub>鈍<sub>一</sub>好<sub>一</sub>自<sub>一</sub>行<sub>一</sub>學<sub>一</sub>位  
一日<sub>一</sub>學<sub>一</sub>一字<sub>一</sub>三百<sub>一</sub>六十<sub>一</sub>字

と云ふは元と云ふは  
元と云ふは元也  
元日と云ふは元月  
の初日也其の始は  
元と云ふは元也  
人の心を元と云ふは  
心万物の始と云ふは  
もろくも元と云ふは  
元と云ふは元也

上巳

三月と云ふは上巳也  
辰の月と云ふは巳と除  
甲と云ふは不祥と云ふは  
くかると云ふは巳月也  
梅と云ふは梅と云ふは  
との心と云ふは梅の心  
秋と云ふは秋と云ふは  
ありと云ふは花と云ふは  
べりと云ふは上の心也

一字當<sub>一</sub>子<sub>一</sub>金<sub>一</sub>一<sub>一</sub>点<sub>一</sub>助<sub>一</sub>他<sub>一</sub>生  
一日<sub>一</sub>師<sub>一</sub>不<sub>一</sub>疎<sub>一</sub>况<sub>一</sub>教<sub>一</sub>年<sub>一</sub>師<sub>一</sub>年  
師者<sub>一</sub>世<sub>一</sub>契<sub>一</sub>祖<sub>一</sub>去<sub>一</sub>一<sub>一</sub>世<sub>一</sub>眼  
身<sub>一</sub>子<sub>一</sub>去<sub>一</sub>七<sub>一</sub>尺<sub>一</sub>師<sub>一</sub>教<sub>一</sub>不<sub>一</sub>二<sub>一</sub>階  
親<sub>一</sub>音<sub>一</sub>為<sub>一</sub>所<sub>一</sub>孝<sub>一</sub>室<sub>一</sub>冠<sub>一</sub>戴<sub>一</sub>教<sub>一</sub>所<sub>一</sub>院  
勢<sub>一</sub>為<sub>一</sub>親<sub>一</sub>孝<sub>一</sub>頭<sub>一</sub>戴<sub>一</sub>父<sub>一</sub>母<sub>一</sub>骨



日二室まらつて  
 瓜果と片々ね食  
 物とそまらう作  
 年はちいさく  
 系成つてもあして  
 好結やどよと作  
 かりてま成る巧  
 奠とらふ  
 八羽  
 月朔日とあま  
 秋日との世俗の風  
 儀わりいれた田乃  
 実熟まらふとら  
 ころんと茶菓ま  
 ころんとあとの業ふ

徒然類不眠車流好夜学  
 聚室而寝天宣士好夜学  
 積雪為燈矣体穢入意文  
 不知冠之落高風入意文  
 不知麦之流劉先也織衣  
 痛甚不息使寬多癖作

てれむとのみ深草  
 院のはよりくま  
 供とみ新白のゆ  
 中乞  
 七月十八日と壬午  
 盆とつひみ中乞  
 つのり正月十五日  
 とよえく七月十  
 又月夜中乞と十  
 月十八日と下乞と  
 け中乞二年の中  
 ちりゆへと殊りて  
 ともとつて且天平  
 聖武のはよりけり  
 まらうとらふと武

腰帯と文不捨此等一人  
 宜夜好字又文探満園家  
 逐行積雪位能磨養後隋  
 口恒浦経浦又削り削夫  
 腰帯と枕と書張儀浦新右  
 花木結菓美危老毛浦史記











未孫	忌三日 服七日	孫	忌三日 服七日	曾祖父母	忌九日 服九日	祖父母	忌二十日 服二十日	生父母	忌三十日 服三十日	妻子	忌十日 服十日
----	------------	---	------------	------	------------	-----	--------------	-----	--------------	----	------------

身雖不壞而切利摩老敵  
 歎遷化重考之入究否客客  
 此父血刀若須達之十使  
 言自其世為阿育之七寶  
 云實於壽命月之遷月感  
 彼博快之使龍帝於巧力

未孫	忌三日 服七日	孫	忌三日 服七日	曾祖父母	忌九日 服九日	祖父母	忌二十日 服二十日	生父母	忌三十日 服三十日	妻子	忌十日 服十日
----	------------	---	------------	------	------------	-----	--------------	-----	--------------	----	------------

彼打欲率杖人尤可引施  
 布於其探撥人最不惜欺  
 財寶至於隙若人奚窮身  
 可布施者欲見他在施時  
 一生隨喜人然人於一人  
 切德如大海為已施諸人

月の出没の度

朔日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日
うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ

得報如慈子 聚砂成塔人  
 早研黄金屑 折花供佛案  
 速修蓮華殿 一向信受力  
 起转悔王位 幸得闻法德  
 胜年安寝 上须取佛道  
 中可却四恩 下编及六道

十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	廿日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	晦日
うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ	うのひこくニハ

共之来仁乃 为德了幼童  
 位因果道理 出何典外典  
 身者勿能信 同者不生矣  
 童子教終

弘化甲丁未年仲冬判

甲陽書肆

村田登孝志郎

あ政二松

二月 廿日

上高村

吉啓太郎

長春所